

山田俊
藏著

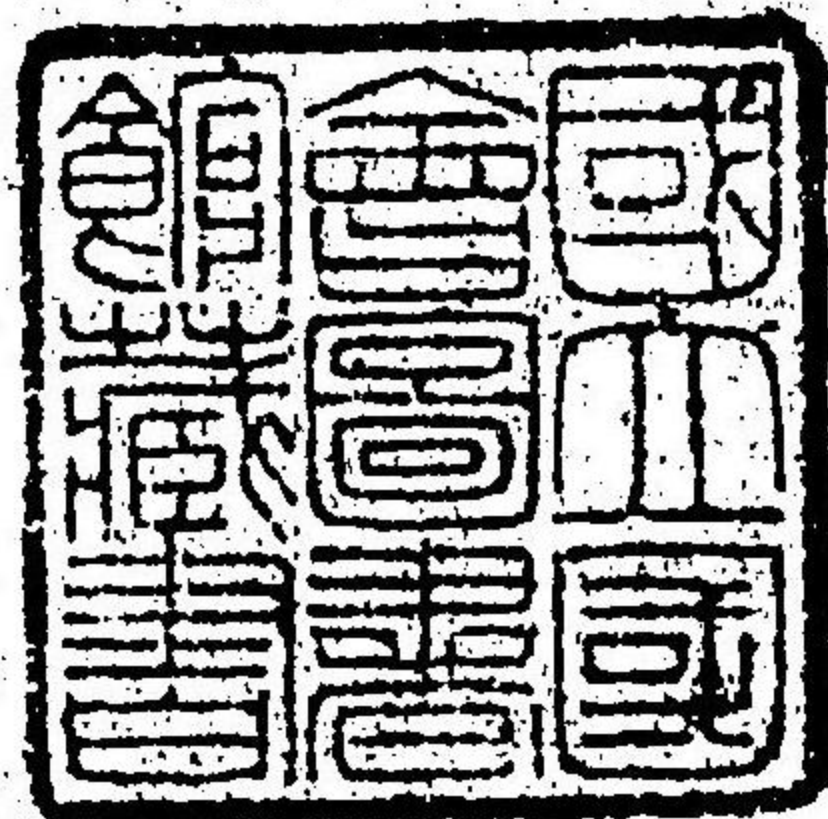
近世事情四篇

九

210.61

Y294e

560
4
3



284668

近世事情四篇綱領目錄

卷之九

明治四年正月ヨリ七月ニ至ル迄七箇月間ノ
開化進歩ニ關スル紀事

廣澤參議變死ノ事一

覆面頭巾等ニテ城門通行禁止ノ事一

恣ニ空地開墾禁止ノ事ニ

貸金銀利息定制廢止ノ事ニ

民部省牧畜事務管轄ノ事ニ

縣官中ニ權大參事ヲ置ク事ニ



諸祭参勤人ノ衣帯ヲ定ムル事三
 徳島藩知事廢藩置縣ヲ請ヘル上表三
 山形縣專断處分ノ事四
 諸官省廻達布告ノ事四
 御親兵徵集ノ事四
 華族ヲ東京府貫屬トナセシ事五
 心願ト稱シ神樂奉納禁止ノ事五
 造幣寮開業ノ事五
 等外ヲ四等ニ分ツ事五
 家禄端數切捨ノ事五

海軍水卒ヲ募ル事五
 兇賊必獲ニ期スル詔書六
 猥ニ燈臺建築禁止ノ事六
 大久保参議賞典禄ヲ奉還セシ事六
 赤穂藩村上六郎復讐ノ事六
 東京大坂ノ間ニ郵便ヲ開ク事七
 御用便廢止ノ事七
 神武天皇遙拜式ノ事七
 高島嘉右衛門軍資金献納ノ事七
 九龜藩知事辭職表八

英公使勅問ニ奉答スル事九

宣言書式自十至十一

新律綱領ヲ各國公使ニ贈ル事十二

官許ナキ金券等禁止ノ事十三

戸籍法三拾三則改正ノ事十四

何等出仕廢止ノ事十五

御雇ノ名稱廢止ノ事十六

宮華族家士ニ復籍文給金ヲ賜ヒシ事十七

專賣畧則自十四至十五

毛利敬親從一位ヲ贈ラル、ノ事十八

平民乘馬ヲ許サル、ノ事十九

松代藩知事屏居ノ事二十

東西ノ要地ニ鎮臺ヲ置ク事二十一

縁組規則改正條二十二

伊達大藏卿清國へ遣サル、ノ事二十三

刈谷藩知事歸農策ヲ上ル事二十四

副島参議魯國へ遣サル、ノ事二十五

官國幣社ヲ置ク事二十六

神官職負表二十七

高掛物取立廢止ノ事二十八

三陸錢相場廢止ノ事主

古器舊物ヲ保全セシムルノ事主

省親養病中官祿賜方ノ事主

判任官轉任心得ノ事主

溺成人取扱ノ事主

三田藩知事華士族ノ名義ヲ削ラント請ヘ

ル上書主

逃亡例主

新貨條例中ノ告諭主

龍岡藩知事辞表主

傳染病預防ニ付米人忠告ノ事主

販賣品代金淹滞ノ者裁判ノ事主

梟示行刑場ノ事主

熊本藩知事士族ニ歸セント請ヘル上表主

菊御紋禁止ノ事主

筵蓆代廢止ノ事主

御所門跡號等廢止ノ事主

寺院祿制主

寺院下馬札禁止ノ事主

紙幣通用心得ノ事主

名古屋藩知事上表

大拔蓄儀再興ノ事

城内車寄ヨリ昇降ノ事

行刑場ヲ一箇所ニ定ムル事

福岡藩紙幣質造處外ノ事

英國公使發銃遊獵規則ヲ定ムル事

大教ノ旨要

刑部省彈正臺ヲ廢シ司法省ヲ建ル事

元服家督ノ献上物ヲ停ムル事

御麻配分禁止ノ事

廢藩置縣ノ詔

薩長土佐賀四藩知事へノ勅諭

熊本名古屋徳島鳥取四藩知事へノ勅諭

辨官ヲ廢スル事

廢藩置縣ヲ各國公使ニ告ル事

金銀銅賣買免許ノ事

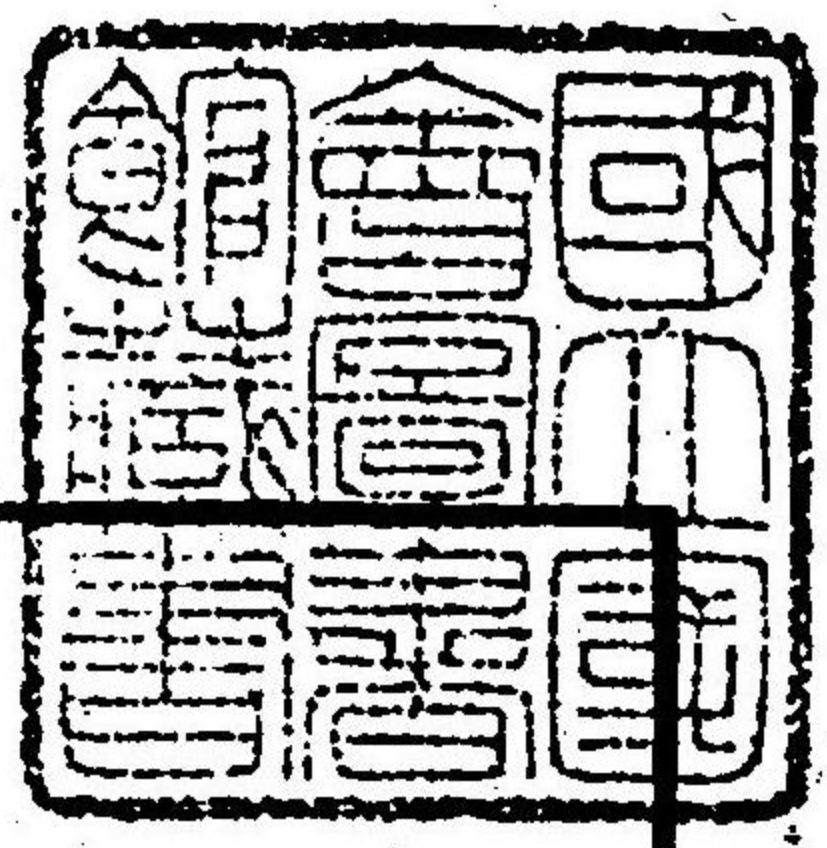
大學ヲ廢シ文部省ヲ建ル事

氏子取調規則

守札難形

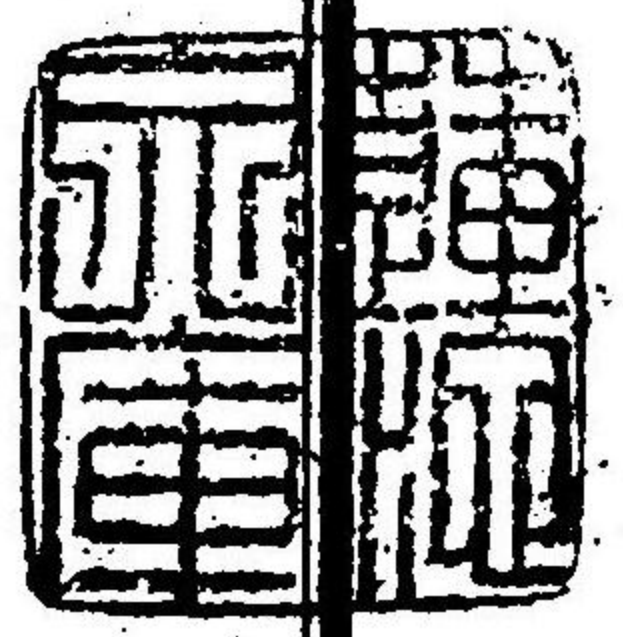
文部教官ヲ定ル事

女官位改正ノ事矣
民部省ヲ廢スル事矣
大藏省察司廢置ノ事矣
奏任官宜旨渡方ヲ定ムル事矣
太政官官制矣
判任履歷表編輯規則矣



山田俊藏著
近世事情四篇卷九

明治四年正月ヨリ七月ニ至ル迄七箇月間ノ開
化進歩ニ關スル紀事



明治四年正月
社寺領ヲ上
地セシム
廣澤參議贈
授セラル
城門警戒ヲ
嚴ニス

明治四年正月五日諸國社寺領ヲ上地トナス○九
日曉賊アリ廣澤參議邸内へ潛入シ參議ヲ殘害シ
テ逃ル之ク所ヲ知ラズ朝廷震怒天下ニ令シテ其
賊ヲ索ム尋ヒテ參議ノ勲功ヲ追感シ且其不幸世
ヲ謝セシヲ悼惜シテ贈正三位并ニ金幣三千圓ヲ
賜フ是日海軍兵學寮規則ヲ定ム○十日城門警戒

兵ノ規律ヲ嚴ニシ外櫻田以下外郭十門薄暮六時ヨリ無印鑑ニテ通行スルヲ禁ジ且其印鑑ヲ外國人ニ借スルヲ停止ス○十二日郡上藩知事青山幸宜家禄ノ内五百九十六石二本松藩知事丹羽長裕家禄三分一大聖寺藩知事前田利榮家禄半高ヲ以テ藩債償却或ハ窮民撫卹ノ費ニ給セント請フ皆之ヲ許サレ此日久保田藩ヲ秋田藩柴山藩ヲ松尾藩ト改ム○十三日租税出納決算規則ヲ改定ス○十四日覆面并ニ頭巾等ヲ用ヒ外郭諸門通行スルヲ禁ズ是日兵部省神祇官ノ京都出張所ヲ廢ス

秋田藩
松尾藩

京都兵部省
神祇官ヲ廢ス

恣ニ空地ヲ
拓ク勿レ

前利引落ヲ
禁ズ

白石城ヲ毀
ス

横濱守衛

○十七日官川藩知事堀田正養家禄十分一ヲ貧民救助ニ供セント請フ亦之ヲ許サレ此日官ニ請ハズシテ恣ニ荒蕪不毛ノ地ヲ開墾シ所有地トナス
一ヲ禁ズ○十八日利金ノ定制ヲ廢シテ貸借双方ノ示談ニ任シ其利于テ證書ニ記載セシメ前利ニ引落ス一ヲ停止ス此日白石城ヲ廢毀シ其材料ヲ仙臺藩士片倉小十郎ニ賜フテ其北海道支配地ノ開墾ニ盡カセシテ賞ス○二十日金澤藩兵半大隊ヲシテ横濱ヲ守衛セシム此日大藏省中通商司ニテ取扱ヒシ牧畜事務ヲ民部省ニ屬ス○二十二日

權大參事ヲ
置ク

大少疏權官

廢金引換
令

島羽藩知事稻垣長敬上表シテ海軍ノ建制ハ現今ノ急務ナリト藩高六分一ヲ海軍資ニ充ント請フ朝廷之ヲ嘉ミシテ増額ノ分ハ其藩廳ニ備置セシム是日縣官中ニ權大參事ヲ置キ從六位相當トナシ正權大參事互置定員ヲ踰ヘザラシム○二十三
日彈正臺中ニ大少疏權官ヲ置ク○二十四日信書郵便法施設ニ付驛々繼立方切手賣捌規則ヲ布令ス○二十五日諸藩ニ令シテ新クニ租稅ヲ改革増減スルニ臨ミ其旨ヲ伺出サシム此日廢金ハ混合地金ニ付造幣開察ノ後之ヲ吹替フ可キ旨ヲ令ス

京都諸陵祭
ヲ廢ス
諸祭參勤ノ
衣帶

德島藩知事
表

○二十八日從五位南部信民位記ヲ返上シテ博ク士民ニ交リ知見ヲ開カント請フ之ヲ許サル此日諸陵寮京都出張所ヲ廢ス○二十九日諸祭參勤ノ衣帶ヲ衣冠單指貫ニ定メ衣冠ナキ者ハ直垂ヲ着用セシム是日官撰生徒ノ學資金ハ外國留學生ノ外之ヲ廢ス時ニ德島藩知事蜂須賀茂韶上表シテ曰今ヤ乾運新クニ關ケ皇威振興シ大ニ數百年來ノ弊習ヲ洗除シ天下ノ制度ヲ改定シ万世不拔ノ基ヲ立フ其名アツテ其實ナカル可ラズ然ルニ典型軍旅ノ政ヨリ財度庶務ニ至ル迄現今未ダ之

ヲ統一スルニ至ラズ頗ル遺憾アルが如シ夫レ藩
屏ノ名タル封建ニ用ユベケレ^レ今日ニ於テハ此
名一日モ存ス可ラズ臣竊ニ惟フ漸然藩名ヲ廢シ
知藩事ヲ改メテ知州事トナシ廟堂上ニ立ツテ事
ヲ執ルノ官ト定メ各藩管轄ノ廣狹ニ應ジニ三縣
或ハ四五縣ニ區分シ即今正權大參事ヲ以テ其知
縣事ニ任ジ知及事ハ親シク聖意ヲ奉ジテ号令ヲ
下ガシ知縣事ハ民間ニ接シテ事ヲ施サシメ且藩
兵ハ兵部省ニテ總括シ天下普ク一致ノ体ニ歸セ
シメシ^レテ臣惘願ニ堪エズ敢テ愚衷ヲ布ク○晦

多度津藩
廢ス
山形縣ノ事

日徵兵支度料并ニ入營旅費定則ヲ定ム○二月二
日宮萃族ノ士卒平民拜借傭入等ハ願案ヲ布告ス
○五日多度津藩知事京極高典列藩ノ政治風教或
ハ其轍ヲ異ニシ三治一致ノ朝旨貫徹セザルヲ慨
キ其職ヲ免ゼント請フ朝廷之ヲ許シ多度津藩ヲ
廢シテ倉敷縣ニ合セシム此日山形縣專斷ヲ以テ
雜稅免除ノ令ヲ其管内ニ布キシヲ一般ノ法則ニ
悖レバトテ其令ヲ引戻サシム○七日津和野藩知
事龜井茲監四箇年間現米三百石龍野藩知事服坂
安斐每年現米百三十石ヲ以テ貧民救助ニ充ント

茂木藩

所 彈正臺出張

回達布告

御親兵

請フ皆之ヲ許サル○八日谷田部藩ヲ茂木藩ト改
ム○九日京接巡察出張所ヲ大阪へ移シ彈正臺出
張所ト改メ京都へモ亦同所ヨリ出張セシム○十
日諸官省廻達布告ヲ及紙ニ謄メ冊子ニ綴リ宛所
ノ上へ官省ノ小印ヲ押シ其下ニ請取候大少史録
ノ印ヲ押シ月日時ヲ記載シテ頃次廻達セシム○
十二日延岡藩知事内藤政舉現米千二百石ヲ藩債
支消ニ充ント請フ許サル○十三日薩長土三藩ノ
精撰兵隊ヲ御親兵トナシ薩ヨリ歩兵四大隊砲兵
四隊長ヨリ歩兵三大隊土ヨリ歩兵二大隊騎兵二

奉換ヲ東京府貫屬トス

神樂奉納ヲ禁ズ

逆幣寮ヲ開ク

等外ヲ四等ニ分ツ

小隊砲兵二隊ヲ徴ス是日海軍兵學寮生徒入寮規
則ヲ定ム○十四日皇妃皇子皇女等ノ陵墓取調方
ヲ令ス此日華族^{元武}ヲ都テ東京府貫屬クらしメ且
心願ト称シテ狎ニ神樂奉納スルヲ禁ズ○十五
日大阪造幣寮閑業ニ付出張官員三條右大臣大隈
参議伊達大藏卿澤外務卿柳原外務大臣大寺
存知事以下三十四名英米佛班蘭公使等六名其他
隨從書記官岡士等五十餘名會同ス○十七日從來
官等ノ第十六等ヲ三等ニ分チ其以下ヲ等外ト唱
ヘシヲ止メ更ニ等外ヲ四等ニ分ツ

從前 ^{第六等} 一等十五石	全	三等十二石	從前 ^{等外} 一等十石	全	二等七石
等外一等		等外二等	等外三等		等外四等

此日藩々五箇年平均現石高ノ十分一知事家禄ノ
 分ハ四拾五入法ヲ以テ石止メニ引去リ殘高ノ十
 分一軍資ニ充ツベキ分ハ外ニ止メ合以下ノ端數
 ハ總テ切捨テシム○二十二日水理堤防條件ヲ布
 令シ且海軍水卒採用ニ付天下ニ令シテ強壯且懇
 願ノ漢者ヲ募ル是日大綱藩ヲ龍寄藩ト改称ス○
 二十五日詔ニ曰故參議廣澤真臣ノ變ニ遭フヤ朕
 既ニ大臣ヲ保庇スル一能ハズ又其賊ヲ逃逸ス抑

四拾五入法

海軍水卒ヲ募ル

龍寄藩

兇賊必獲ニ類スル詔書

報ニ燈臺ヲ設ク可ラス

大久保參議賞典ヲ奉還ス

維新以來大臣ノ害ニ罹ル者三人ニ及ベリ是レ朕
 ノ不速ニシテ朝憲ノ立タズ綱紀ノ肅ナラザルノ
 致ス所朕甚ク之ヲ憾ム其レ天下ニ令シテ嚴ニ搜
 索セシメ賊ヲ必獲ニ期セ曰此日燈明臺ハ海上ノ
 要路ヲ撰ヒ外國人ニ謀テ建築ノ場所決定スベキ
 ニ付府藩縣ニ於テ報ニ之ヲ建設スルヲ禁ズ○二
 十七日參議大久保利通上表シテ海陸軍ヲ更張ス
 ルハ目前ノ急務治國ノ根元ナリト賞典禄ヲ奉還
 シ其軍費万分ノ一ヲ補ハント請フ朝廷之ヲ嘉納
 ス○二十八日判任ヨリ奏任ニ轉ズル者ノ姓名取

赤穂藩村上
六郎ノ復讐

調方ヲ令ス此日高槻藩知事永井直諒家祿三分一
ヲ藩廳経費ニ充ント請フ之ヲ許サル○晦日海外
漂流人帰着セシ時ノ取扱方ヲ布告ス此日赤穂藩
村上六郎其親族村上四郎村上行藏池田農夫也津
田勉等ヲ率ヒ同藩士山下鋭三郎西河邦二吉田宗
平山本隆也八木源右エ門田河運六ヲ紀州伊都郡
西郷村ニ撃ツテ父離ヲ復ス六郎父ヲ真輔ト曰フ
庚午十二月赤穂ニ於テ鋭三郎邦二等六名ノ為ニ
欺殺セラル人其故ヲ知ラズ復鋭三郎等其子六郎
復讐ノ志ヲ抱クヲ度リ之ヲ高野山ニ避ケントス

東京大阪ノ
間ニ郵便ヲ
開ク

武官ハ朝拜
ニ軍服ヲ用

兼任以上撰
舉相方

御用便ヲ廢
ス

五事

是ニ至テ天網漏サズ竟ニ六郎ノ殪ス所トナル○
三月朔日東京ヨリ京都迄三十六時大阪迄三十九
時限ノ日々郵便ヲ開キ公私ノ信書ヲ配達セシム
○二日福岡藩知事黒田長知家祿四分ノ一ヲ献ジ
藩債ヲ償却セント請フ許サル此日武官ヲシテ朝
拜禮式ニ軍服ヲ着セシメ且兼任官以上撰舉伺ノ
時ハ本人ノ苗字通称姓實名等ヲ詳記セシム○四
日毎月四九ノ日東京ヨリ西京ヘノ御用便ヲ廢ス
此日英國軍艦長寄入港ニ付兼組兵卒ニ上陸遊歩
ヲ許ス○五日勅祭神社ヘ献納ノ玉串等ヲ地方官

神武天皇遺 拜式

御親兵類外ノ資金
高島嘉布工門軍資ヲ上ル

ヨリ辨官へ差出サシメ神祇官へ差出セシテ止ム
○七日神武天皇祭典海内一般遵行ニ付毎年三月十一日地方官ニ於テ遙拜式ヲ行ハシム○八日二條城ヲ京都府ノ管轄トナス○九日殊旨ヲ以テ宮内省定額金ノ内十萬圓ヲ御親兵ノ用度ニ充ツ此日横濱商民高島嘉布工門上表シテ農商ト雖臣海陸軍整備シ國家平穩ニアラザル即チ營業スル歎ハザレバ亦國家ノ安危ヲ與知セザルベカラズトテ西洋各國ノ商税ニ倣ヒ利益金二十分ノ一即チ金千圓ヲ献納シ軍資ノ万一ヲ補ハント請フ朝廷

普魯士王獨逸國皇帝ナル

雅樂局出張所

聖世紹胤錄
絶板ス
水卒家族ノ扶助米

佛ヲ廢セス

嘉シテ之ヲ納ル○十二日獨逸國公使參朝シテ獨逸國一新ニ付普魯士王獨逸國皇帝ノ位ニ登リシ旨ヲ告グ○十三日皇英ノ二艦ヲシテ北海道ヲ測量セシメ其事務ヲ兵部省へ委任ス○十四日京都ニ雅樂局出張所ヲ置ク○十五日東條信耕ノ著述セル聖世紹胤錄杜撰ニ付發行ヲ禁ズ○十八日海軍水卒ノ家族ニ扶助米一ケ月分玄米三斗五升入一俵ヲ賜ヒ毎年七月十二月兩度ニ兵部省ヨリ之ヲ其管轄地方官へ渡サシム此日天下ノ寺院ニ廢佛ノ朝旨ニアラザルヲ告諭ス○十九日死牛馬

賈札改所

九龜藩知事
上表

等其持主ニ適宜所分スルヲ許シ從來穢多ニ限り
 取扱ハシメシヲ止ム○二十三日判任以下ノ履歷
 書ヲ官廳ニ備置ス○二十五日賈札鑑迄掛紙出ニ
 付各藩ニ於テ賈札改所ヲ設ケ嚴ニ之ヲ取締ラシ
 山○二十七日九龜藩知事京極朗徹上表ノ畧ニ曰
 固陋ハ士民藩名ニ拘泥シ封建ノ旧習ヲ脱セズ故
 ニ藩ヲ改メテ縣トナシ御校ヲ設ケテ四民同學セ
 シメ且藩内常備兵ヲ解キ銃砲ハ悉ク兵部省へ還
 納シ兵員ヲ要スルニ當テハ四民中ヨリ之ヲ撰舉
 セン朝廷即チ九龜藩ヲ廢シテ九龜縣ヲ置キ朗徹

英公使參卷
ス

ヲ以テ其知事ニ任ス○二十九日英國公使パーク
 ス參朝シテ歸國ニ付已ニ代フルニアダムスヲ以
 テセント告グ皇帝之ニ金造太刀金襴七卷硯箱料
 紙箱文臺等ヲ賜ヒ因テ勅シテ曰一新以來我國ノ為
 為ニ盡力勤シトセズ朕甚ク之ヲ喜ブ猶我國ノ為
 ニ慮ル所アラバ宜ク朕ノ為ニ之ヲ大臣等ニ告ゲ
 ヲ菲薄ノ土宜聊以テ別ヲ送ル公使答テ曰新政府
 信義ヲ以テ條約ヲ守リ公明正大ノ政ヲ施ス臣等
 感喜セザランヤ今一層開化ヲ進メントス即チ藝
 術ヲ講究セズンバアル可ラズ故ニ現今雇入レシ

本官并兼官に在り轉職之時如故に在りて前官に兼用トモ被免公論ナリ如故
字面書ハハキ分テ例ノ如シ

民部大藏兼職山大徳云々

任兼職大佐民部大藏兼職トシテ新任官ヲ以テ本官トシ前本官ヲ以テ兼官トシ
前兼官に被免ナリ

逆左兼大佐兼武庫少佐云々

任兵部大藏兼官如故トシテ前本官兼職トシ前兼官に其兼職官トナルナリ

本官并兼官アル者本官に免シ兼官ヲ以テ本官トシ時ハ宜旨印章下(何年何月幾日)

免本官專任何官ト欲ハ若シ本官兼官に宜旨一通ニ相成公兼官宜旨印章下(何年何月)

幾日專任ト欲ハ本官宜旨印章下(免官)別文ヲ認ム

罪ナクシテ官ヲ免セラルモハ前書通印章下(免官)別文ヲ書入ト本人へ還シ賜フ

罪アリテ官ヲ免セル時ハ記ヲトリ上クシ○在官中死スル者ハ記ニ其遺体ハ公家ニ存シ

置クシ

都々外ハ宜旨下ナレズ

地方官宜旨書式

大蔵書堅紙ハツ折



姓名

任京都府權典事

京都府知事從三位姓尸名宜

京都府大參事從四位姓名奉行

明治(西曆)年干支何月幾日

諸官省官省院並職坊使等ノ字ヲ書サル例ナリ神祇權大史民部大藏開拓大主典等ノ類ノ如シ
地方官ハ府藩縣ノ字ヲ書スル例ナリ
京都府權典事ハ金澤藩大蔵大主典ノ少屬等ノ類ノ如シ
知事關員或ハ出役中等ノ節ハ權典事ニテ宜ス
本署關員或ハ出役中等ノ節ハ權典或ハ正權少參事ニテ奉行スル者縣等ニテ權少參事判任ナク下ノ關員ノ書式ニ依ラシ
此他總ノ書式同

地方官假宜旨書式

大蔵奉書半切

苗字通称

任京都府權典事

干支月

京都府

府藩縣准之

東京府爲○金澤藩少屬
金澤縣權大蔵等ノ如シ

卿長官正權知事輔次官共關員之節書式

任	姓	名
神祇伯 <small>關</small>		
神祇大祐 <small>從四位姓名奉行</small>		
明治		

諸官正權知事地方官共關員
其他應前書式同

判官以丞少參事等正權共關員之節書式

任	姓	名
神祇伯 <small>從二位姓名奉行</small>		
神祇大祐 <small>關</small>		
明治		

諸官以丞少參事等正權共關員
其他應前書式同

四月

英國刑律書

○四月三日檇羅藩知事永井直哉家祿十分ニヲ以テ太政官造建ノ經費ニ給セシト請フ之ヲ許サル是日澤外務卿新律綱領ヲ英米佛蘭等締約各國公使ニ贈テ各其本國刑律書ノ標題ヲ垂示セヨト請フ英公使即テ其書目ヲ呈シ本國政府ヨリシテ之ヲ獻ゼシメント答フ書目ニ云刑律書原名アルチボルト氏著クリミナル、スタチユートス、羅馬刑律書原名ロスクリ氏著ダイクスト、オフ、クリミナル、ケース、罪科及ビ過失處分ヲ記スル書原名チルツセル、オン、クライムス、エンド、ミス、デニールス、○四日妄ニ會社ヲ結ビ官許ナキ金券或

官許ナキ金
券等ヲ禁ス

礦山開採ヲ
許ス

戸籍改正ノ
告諭

ハ空名預リ切手ヲ發行スルヲ禁ジ且諸藩ニ令シ
テ會計窮迫ノ餘リ蓄積ノ米穀高ニ適セザル空米
切手ヲ製スルヲ停止ス○五日礦山開採願望ノ
者ニ之ヲ許シ適宜ノ税金ヲ納メシム此日戸籍法
三十三則ヲ改正シテ曰夫は全國人民ノ保護ヲ
政の本務と爲す素より之を待たざる其保護ヲ
つゝ人民を詳小せば何と以て其保護すべきこと哉施
まを得んやこれ政府戸籍を詳小せざる儀あり
又人民の各安康を得て其生を遂る所以のハ政
府保護の庇護ふらざるもあらず其籍を逃れ其

海軍事情
口着老カ

何等出仕
廢ス

御雇ヲ廢ス

敷小漏るゝもの其保護を受けざる理して自ら國民の
外たふ近一此き人民戸籍を納めざるを得ざるの儀
かり中古以来戸籍の法錯雜の弊を免き或ハ此
籍を逃せ或ハ彼籍を欺き夫就やん小任せ往來規
ふらば沿道の習人々自ら度外小附るに至る故ハ
今般全國惣体の戸籍法を定らるゝを以て普く上下
の通議を辨へ宜し粗畧のことあるべし○七日出
仕ニ等級ヲ立ツルハ不体裁ナリトテ何等出仕ヲ
廢シ其席列ヲ分ツニ何官準席ノ名義ヲ以テス此
日御雇ノ名稱ヲ廢止ス已巳六月雇士ノ称被廢レ

近世事情
田部春也

復籍支給金

シヲ以テナリ○九日官卒族家士二代以下ノ者ニ復籍支給金ヲ賜ヒ且新發明品專賣免許畧則ヲ定ム

支給金

三十年迄勤作者	七十五兩	五十年迄ノ者	五十兩	十九年以下ノ者	二十五兩	四年以下ノ者ハ之ヲ賜ハズ
二十年迄				五年以上		

專賣畧則

○專賣畧則

一何品ニ拘ラズ世用ノ便利ヲナス者ハ年限ヲ以テ官許スベク年限ハ發明ノ次第ニ依リ第一等ヲ十五年第二等ヲ十年第三等ヲ七年トス

一官許ヲ得ント欲スル者ハ發明品及ビ工夫ノ次第ヲ詳記シ繪圖或ハ雛形ヲ以テ其地方官ヘ願フベシ地方官之ヲ民部省ヘ差出シ免許狀ヲ受ク可シ

一發明ノ物品及ビ工夫ノ次第等豎横平圖等ニ形狀ヲ寫シ機關ノ箇所ハイロハ等ヲ以テ其番号ヲ加ヘ一目了然クラシム可シ

一地方官ニ於テ發明人并ニ證人ノ請證文ヲ取り民部省免狀ヲ渡スベシ

一税金八年限中一箇年金五兩管廳ヘ前納スベシ

尤物品ニヨリ其増減アルベシ

一 專賣免状ヲ渡ストモ賣試ノ為六箇月間無税七箇月ニ至リ賣捌ノ目途アレバ一箇年税金ヲ納ムベシ

一 六箇月賣試ノ内賣レズシテ免状返却アルモ可ナリ若シ七ヶ月後返却ノ者ハ其前納一年ノ税金ヲ返サズ

一 他人ノ發明品へ更ニ工夫ヲ加ヘタル者ハ其發明ノ品へ何々ノ廉改正ト詳記スベシ其物品相類似スト雖モ工用工夫同カラザルバ異同ノ辨

ヲ具スベシ

一 世用有益ノ品ニテ其發明人存在スト雖モ年来世間ニ流布スル者ハ官許ヲ與ヘズ

一 數人心ヲ令セ發明シタル物品ハ社中連名ニ認メ免状ヲ與フベシ各通ニ與ヘズ

一 年限中免状ヲ他人ニ賣ル一適宜タルベシ尤双方ヨリ免状へ書添ヲ願フベシ

一 年限中其名ヲ以テ各所ニ支店ヲ設ケ或ハ他人ニ發明品ヲ傳授スルモ可ナリ

一 年限中發明人死亡セシ時ハ免状へ書添ヲ出願

ノ上親族へ譲ルモ可ナリ
一官許ノ文字及ビ發明人ノ名ヲ其物品ニ記シ發賣スベシ

一何管轄何國何郡何村誰何品新發明ニ付專賣差許セシ者ヲ其時々民部省ヨリ布告スベシ

一年限中損失償ヒ難キ者ニテ世間必用闕ク可ラザル品ハ延期ヲ許スベシ

一發明人ノ名ヲ偽リ或ハ官許ナキ物品ヲ官許ト偽ル者ハ過料ヲ課スベシ

○十日横須賀及ビ長崎製錢所ヲ造船所横濱製錢

造船所

製作所
傳信機ヲ城
中ニ設ク

毛利敬親ニ
從一位ヲ贈

渡船賃額ヲ
定ム
平民ニ乘馬
ヲ許ス

所ヲ製作所ト改メ且府縣置米金請拂等改正ノ條
件ヲ布告ス○十二日城中ニ傳信機ヲ設ク○十三
日神田相生兩橋ノ間ニ関門守衛ヲ置ク○十四日
從二位毛利敬親薨去ニ付侍從堀川康隆ヲ山口藩
ニ下グシ其偉勳ヲ追感シ贈從一位ヲ宣下セシム
是日東海道筋大井與津安倍川等ノ渡船賃錢表ヲ
定メ地方官ヲシテ水主ノ旅人ニ強迫スルヲ取締
ラシム○十七日平民ニ乘馬ヲ許ス此日大手坂下
車寄中仕切等城内諸門ノ警戒兵規律ヲ定メ益守
衛ヲ嚴ニス○二十二日米國公使デロンク參朝シテ

米國特派全權公使

真田幸民親王ヲ

鎮臺ヲ置ク

特派全權公使ニ委任セラレシ旨ヲ告ゲ且大統領
ガランドノ手書ヲ捧呈シ益交誼ヲ親密ナラシメン
ト請フ此日松代藩知事真田幸民元大参事真田櫻
山以下數人ヲ屏居セシム蓋シ幸民等藩札引纏ノ
朝旨ヲ奉ゼズ更ニ収納相場ヲ設ケ藩札割引ヲ布
告セシヨリ藩内ノ騷擾ヲ釀成スレバナリ○二十
三日脱籍無産人復籍ノ規則ヲ改ム此日鎮臺ヲ諸
道ニ置キ以テ兵務ヲ總括シ全國ヲ保護セシメン
ト先ツ東西ノ要地ニ兩鎮臺ヲ置キ熊本佐賀兩藩
兵各一大隊ヲ西海道鎮臺ニ出張セシム

東山道鎮臺

本營 石巻

分營 福島 盛岡

西海道鎮臺

本營 小倉

分營 博多 日田

○二十四日神官僧侶ヲシテ其埋葬セシ人名員數
ヲ其管廳へ届出サシム時ニ縁組規則中管轄違ニ
テ取結ノ時士卒平民トモ双方ノ官廳ニテ聞濟互
ニ送状取替サシメシハ平民ノ之ヲ廢ス○二十

死人ヲ調査ス

縁組規則改正條

伊達大藏卿
ヲ清國ニ遣
ル

五月

一品職仁親
王

川谷藩知事
建吉

七日大藏卿伊達宗城ヲ欽差全權大臣外務大丞柳原前光ヲ副使トナシ條約取結ノ為清國へ赴カシム○晦日賣女渡世ノ者繁殖ニ付微毒除害法ヲ設ケテ其傳染ヲ防カシム○五月二日毎年五月ヨリ八月迄ノ海軍服制ヲ定ム○七日一品職仁親王ヲ東京ニ移住セシム○八日印鑑遺失例ヲ定ム○九日川谷藩知事土井利教士卒ヲシテ帰田セシメ以テ士族ノ名義ヲ永世ニ傳へ且凍餓ノ患ナカラシメント其方策ヲ上ル畧ニ曰弊藩高二万三千石物成現米七千九十三石六斗一升内知事家祿海陸軍

資金藩廳諸費ヲ引残テ金三万三千八百二十三兩永五拾文之ヲ七年ノ積金トナシ二十三万六千七百六拾一兩永三百五拾文ヲ得ベシ因テ今此七年間ノ物成ヲ抵當トシテ士卒帰田ノ資本金ヲ借リ元利年賦ヲ以テ償却セバ七年ノ後藩稅ハ全數公納シ士卒ハ永世ノ産業ヲ立ルヲ得シ是レ所謂一舉兩全ノ策ナラン欵請ヲ明漸ヲ垂レヨ朝廷之ヲ許ス○十日東京府貫屬元軍曹ノ輩ヲ永世士族トナシ祿扶持ハ一代限トス○十二日大阪天保山神戸碓泊場兵庫和田岬淡路北岬ニ燈臺箱館港ニ

○十五日欽差全權大臣伊達宗城等清國へ被遣ニ付遣外國使祭ヲ行以是日徳山藩知事毛利元蕃兼爾タル小藩其任ヲ盡スニ足ラズトテ徳山藩ヲ廢シ山口藩ニ合併セント請フ之ヲ許サル○十七日無地高井二年々引ト唱ヘシ高内引等ノ高掛物取立ヲ免除此日三陸藩縣ニ令シテ從來ノ金一兩ニ付錢十一貫文ノ三陸錢相場ヲ廢シ時相場ヲ以テ通用セシム○十八日復タ遣外國使祭ヲ執行ス副島參議魯國へ被遣ヲ以テナリ是日佐賀藩知事鍋島直大贈正二位ノ遺志ナリト賞典祿二万石ヲ

高掛物取立ヲ廢ス

三陸錢相場ヲ廢ス

車稅

省親養病中官祿賜方

古器旧物ヲ保全セシム

奉還ヒント請フ朝廷之ヲ許サズ○二十二日傳信機ヲ以テ通信セシ者ハ公事ト雖モ其音信判ヲ拂ハシト時ニ外國貿易輸出入物品取調書ヲ改正ス○二十三日古器舊物ハ古今時勢ノ變遷制度風俗ノ沿革ヲ考証スルニ足ル者ナリト歴世藏貯ノ者ヲシテ之ヲ保全セシト此日官賣省親養病中等ノ官祿賜方ヲ令シ百日以上病氣引籠中ハ官祿三分ノ一歸省告暇中ハ四分ノ一紉問等ニテ預或ハ出仕ヲ差止メシ者ニハ五分ノ一ヲ賜フ○二十四日府下道路修繕ニ付始テ車稅ヲ收ト此日判任官轉

判任官轉任
心得方

潮灰人取扱
方

三田藩知事
建言

任ノ時前官ノ儘他官廳へ到着ノ後其官廳ニ於テ
轉任ヲ達セシメ從來先ヅ本官ヲ免シ後轉任ヲ命
セシヲ止ム○二十五日官中傳信機ノ稅則ヲ定メ
且潮灰人見當リシ時ハ直ニ人夫ヲ雇ヒ其川岸へ
引揚テ其旨ヲ所役人へ通シ所役人ハ其死体ヲ最
寄墓所へ假埋シ其管廳へ届出ヅ可キ旨ヲ令シテ
見當人へノ賞金一圓五十錢及ヒ人夫雇料埋葬料
等皆官費トナシ是日三田藩知事九鬼隆義上表シ
テ曰近頃各藩知事往々其職ヲ辞シ藩秩十令一ヲ
以テ之ガ家祿トシ其士卒ヲノ府縣ノ貫屬タラシ

△是レ大ニ郡縣ノ實ヲ舉ルニ近シト雖臣其議未
ダ盡サル所アリトス何トナレバ蓋シ邦國ノ獨
立ハ人民獨立ノ集成スル者ナリ故ニ人民各智ヲ
研キ業ヲ修ノ以テ品行ヲ正フシ文明ノ獨立ヲ遂
ケザル可ラズ人民ニシテ智ヲ研カズ業ヲ修メザ
レバ其獨立轉ジテ野蠻ニ變ジ品行ヲ正フスル能
ハズ憲法ヲ守ルヲ知ラズ私意妄行為ザル無キニ
至ル此時ニ當リ政刑善義ト雖臣兵力強大ト雖臣
只其愚ヲ制スルヲ得ルノ三邦國ノ獨立ニ至テハ
殆ト難シトス是ニ由テ之ヲ觀レバ天下ノ獨立ハ

一國ノ獨立ヨリ起リ一國ノ獨立ハ一人ノ獨立ヨリ起ル者ナレバ皇國獨立ノ責ハ却テ近ク銘々ノ身ニ在ルニシ果シテ然ラバ相共ニ同心戮力智ヲ研キ業ヲ修ノ純然ノ獨立ヲ得ザルベケンヤ而シテ其獨立ヲ得ントス即チ所謂世祿ナル者奉還セザルベカラズ然ト雖臣爾後ノ生計ヲモ顧ミズ一時奮然其胃懐ヲ快クスルモ後却テ獨立力食スル一能ハザレバ唯其地ヲ喪ヘル窮餓ノ民タルニ過キザル而已故ニ臣以為漸ヲ以テ農商ニ歸スルノ勝レルニ如カズト仰キ願クハ臣ニ賜フニ十分一

逃亡例

ノ祿ヲ以テセズシテ漸ヲ以テ農商ニ歸スルノ許可ヲ以テセバ五年ヲ期シテ閩藩歸田ノ實策正ニ成リ三田藩ノ實始テ全ク朝廷ニ歸セン因テ請フ先ヅ華士族ノ名義ヲ削ラン一ノ朝廷其歸田策ヲ施サシメテ族稱削去ヲ許サズ(帰田方策大抵別谷藩ニ異ニテ唯五年ノ積金五年去ルニシテ今之ヲ異ス)
○二十八日逃亡例ヲ定メ逃亡五十日以内ニ歸籍スル者ハ律ノ如ク之ヲ處シ五十日以外ニ及ンデ歸ラザル者ハ祿ヲ没メ家屬ヲ民籍ニ編入セシメ本犯復歸スレバ庶人ニ下スニ止ム此日堀江藩知事大澤基壽家祿半高ヲ開拓經費ニ給セント請フ

新貨條例中
書附文

之ヲ許サル此月新貨條例品位量目表通用制限造
幣規則等ヲ布令ス條例中告諭ノ畧ニ曰我邦往古
ヨリ貨幣ノ制度未ダ精密ナラズ其品類各種ニシ
テ其價位モ亦一定セズ今其概畧ヲ舉シニ慶長金
アリ享保金アリ文字金アリ大小判金アリ二分金
アリ二朱金アリ一分銀アリ一朱銀アリ當百錢ア
リ大小數種ノ銅錢アリ甚シキハ一國一郡ノ貨幣
アリテ今ニ至ルマデ僅ニ其一部ニ通用シ他方ニ
流通セザル者アリ此ノ如ク品類區々ニシテ方圓
大小其價ヲ異ニシ混合雜駁其質ヲ同フセズ其間

六月
龍岡藩知事
辭表

或ハ貨幣アリテ竟ニ今日ノ甚シキニ馴致セリ故
ニ明治元年造幣寮ヲ大阪ニ建置シテ廣ク宇内各
國貨幣ノ真理ヲ察知シ新クニ量目性質精密ノ貨
幣ヲ鑄造シ品類ヲ一定シ以テ一般ノ流通ヲ資シ
トス宜シク人々旧習ヲ襲ヒ古金銀ヲ以テ庫中ノ
寶物トナサズ之ヲ造幣寮ニ出ダシ新貨幣ト交換
シ以テ貨幣ノ真理ヲ失ヒ流通ノ公益ヲ塞ク勿ル
ベシ○六月二日龍岡藩知事大給恒辭表ヲ上ル畧
ニ曰拜命以來既ニ三年復タ新令ノ出ルヲ聞カズ
知事ハ世官ニシテ旧藩士ヲノ之ヲ保護シ旧封土

ニ據ラシム昔日將門ノ政体ト其体ヲ異ニシテ其
實僅ニ一髮ヲ隔ルノミナレバ藩々スラ尚其情ヲ
一ニスル一能ハズ況ヤ府縣ト一致セシメント欲
スルヲヤ今都下ノ藩兵ヲ見ルニ日章灯ト菊章幕
ヲ列張スル一同一般ナリト雖也又別ニ其藩ノ合
符ヲ帶ブ是レ他ナシ其名ノ存スルヲ以テ他ト相
伍セザルノ意ヲ表スルニ似タリ獨リ兵士ノミナ
ラズ各藩ノ官貞モ亦其相對スルヤ心竊ニ慝ス所
ナキヲ得ズ遊倅書生モ亦然リ苟モ藩異ナレバ乃
チ昂然氣ヲ張テ藩名ヲ唱フ蓋シ其奉戴スル所ハ

龍岡藩ヲ奏
ス
外國人宿料
等拂方
傳染病ヲ預
防ス

一ノ皇上遵守スル所ハ一ノ朝旨ニシテ四海兄弟
皆王臣ニアラザル一ナキヲ辨知セザル所以ナル
ベシ故ニ三治一致ナラシムヲ欲ス急ニ藩名ヲ除テ
之ヲ辨知セシムルニ若カズ因テ先ヅ臣ノ責任ヲ
解キ我一藩ヲシテ純乎タル縣制ヲ奉セシメント
ヲ悞敷ノ至ニ堪ズ謹テ奉表以聞ス朝廷之ヲ許シ
龍岡藩ヲ廢シ伊那中野ニ縣ニ分轄セシム○三日
高知藩病院ヲ大學ノ所轄トナス○五日各國官貞
ヲシテ我内地通行ノ時人馬宿料等其時價ヲ以テ
相對ニ定メ之ヲ拂ハシム○七日傳染病預防ニ付

嚴原藩ニ令シテ朝鮮ヨリ牛皮輸入スルヲ禁ズ此
時朝鮮シベリヤ海岸ヨリリントルペストト称ス
ル傳染病流行蔓延スレバ上海在留米人テイワイ
マクガワシ我國在留公使デロングニ書ヲ贈テ曰
今ヲ溯ル十年此時疫魯國ヨリ起リ漸次歐亞西部
ニ波及ス英國ノ如キハ之ガ為ニ獸畜五萬頭ヲ失
ヘリ我合衆國政府ハ其時ニ當リ他國ヨリ獸畜輸
入ヲ禁ズレバ今ニ至ルマデ未ダ其傳染ヲ受ケズ
故ニ今此疫ノ傳布スルニ當リ日本諸島ハ嚴ニシ
ベリア地方ヨリ獸皮輸入ヲ禁ズベシ而シテ獸畜

未入ノ忠告

寄留旅行ノ
鑑札

ノ此疫ヲ傳染スルヤ筋節痙攣シ寒慄煩悶スル
三四日ヲ経テ死ニ至ル若シ之ヲ防ガント欲スレ
バ直チニ其疫獸ヲ殺シ火中ニ投スベシ請フ急ニ
此數件ヲ日本政府ニ忠告セヨ○八日再ビ藩札廢
止ノ令ヲ布ク○十日寄留旅行鑑札ノ寸方書式ヲ
定メ府藩縣ノ焼印ヲ押サシム○十二日庭瀨藩知
事坂倉勝弘在職中家禄八十石ヲ上納シ藩廳費ヲ
補ハント請ビ此日販賣品ノ代金淹滞スト雖販賣
掛帳簿ニ借主ノ印證ナキ者ハ之ヲ裁判セザル旨
ヲ令シテ從來十年以内ノ取引ハ賣掛人ノ記載セ

梟首行刑ノ
場所

熊本藩知事
上表

シ帳簿ヲ以テ裁判セシヲ止ム○十四日梟示ノ者
牢庭ニテ断頭シ鈴ヶ森小塚原兩所へ梟示セシヲ
止メ關西ノ罪徒ヲ鈴ヶ森關東ノ罪徒ヲ小塚原ト
定ム時ニ熊本藩知事上表シテ曰維新以來既ニ四
年百端緒ニ就クガ如シト雖臣治教未ダ洽決ナラ
ズ土寇四方ニ蜂起シ兇賊輦下ニ徘徊ス蓋シ官其
人ヲ得ザルノ致ス所トス今日ノ政体神祇太政ノ
二官ヲ置キ六省ヲ建ツ自ラ官負煩冗政務多門ノ
弊ナキ能ハザレバ亦精撰ヲ得ベカラズ殊ニ各藩
知事ニ至テハ多ク門閥ヨリ出テ、材其職ニ當ラ

通事官
四書卷九

菊御紋ヲ
ズ

ズ人其責ニ任ゼズ今ニ及ンデ之ガ計ヲナサザル
其弊復タ測ル可ラズ恭ク惟ルニ聖躬敬神ノ誠德
ヲ以テ大殿ニ臨御シ大臣納言參議ノ三職ヲシテ
聖旨ヲ奉ジ万機ノ政ヲ施サシメバ別ニ二官六省
ヲ置カザルモ政体簡嚴ニシテ却テ其人ヲ得ル易
カラシ臣不肖門閥ニ依テ安ニ至重ノ責任ヲ汚ス
退テ士族ニ歸セントス冀クハ覆載ノ深仁ヲ垂レ
速ニ允裁ヲ賜ヘ○十五日鶴田藩知事松平武聡家
禄十分ニテ奉還シ士卒土着ノ費ニ給セント請フ
○十七日皇族家紋十四葉一重裏菊ノ外總テ菊章

通事官

四書卷九

美

延武代ノ廢
ス
御所門跡等
ヲ廢ス

寺院祿制

ヲ用ユルヲ禁ジ且貢米藏納ニ付從來ノ延武代
ヲ廢ス此日仁和寺大覺寺以下御所門跡院家院室
等ノ名称及ビ執奏ヲ廢シ都テ地方官ノ管轄トナ
シ其家士三代相恩ノ者并ニ坊官候人等ヲ士卒ノ
列ニ加ヘシメ且寺院祿制ヲ定ム

寺院祿制

一從前ノ現収納高ヲ四ツ物成ノ高ニ立シ方今定制ノ二分五厘ヲ以テ現石ニテ
稟給スベキ事

廣高	五千石	三千石	千石	五百石	百石	五十石
現米	千百石	七百五十石	二百五十石	百二十石	二十石	十石

但現米十石以下在米ノ通

○十八日旅人病ニ罹ル時ノ取扱方ヲ定ム此時東

新島原ヲ廢
除ス
僧尼願望人
願方

寺院ノ下馬
札ヲ禁ズ
長野縣

紙幣通用心
得方

京新島原ノ遊廓ヲ廢除ス○十九日僧尼願望ノ者
ヲシテ其管廳へ出願シ許可ヲ受ケシ此日從五
位伊達宗基家祿ノ内現米千五百石ヲ藩廳費用ニ
充ント請フ之ヲ許サル○二十日再ビ令シテ泉涌
寺般舟院ノ外諸寺院ノ下馬下衆札ヲ掲クヲ禁
ズ○二十二日中野縣ヲ長野縣ト改メ且府藩縣交
渉訴訟准判規程ヲ改正ス是日紙幣ノ年月ヲ經テ
摩損スル者ト雖モ字形印章ノ分明ナル者ハ之ヲ
通用シ其燒損スル者ハ之ヲ引替フ可キ事ヲ令ス
○二十三日東海道津坂荒井間ノ渡船賃額ヲ割増

大溝藩ヲ廢
ス
名古屋藩知
事上表

サシム此日大溝藩知事本部光謙其職ヲ辞シ輦下
ニ於テ學業ヲ研究セント請フ朝廷之ヲ許シ大溝
藩ヲ廢シ大津縣ノ支配トナス時ニ徳川名古屋藩
知事上表シテ曰天下ノ勢其趨ク所ニ隨フテ之ヲ
制理セザレバ其極リ收拾スベカラス丁卯以降開
化日ニ進歩シ今日ニ至テハ士卒祿ヲ以テ國債ト
ナシ支消法ヲ建議スル者アリ歸田祿券等ヲ懇願
スル者アリ其施設方法一ニシテ足ラズ此時ニ當
リ朝廷早ク經國ノ大体ヲ議定シ天下ヲシテ其向
フ所ヲ知ラシメズンバ百綱弛廢シ人心渙散セン

津和野藩ヲ
廢ス

大坂ヲ再興
ス

故ニ今八十四州ヲ八十四政府トナシ其人民其兵
權悉ク之ヲ太政官ニテ總括シ以テ彼我ノ別ヲ生
ゼシメザレバ所謂制理ノ道其宜ヲ得ルニ至ルベ
シ細目方法ノ如キハ其名ヲ先ニシテ其實ヲ責ル
者アリ其實ヲ先ニシテ其名ヲ正ス者アリ敢テ請
フ廟議ヲ畫サンコトヲ○二十五日津和野藩ヲ廢シ
濱田縣ノ管轄トス知事龜井茲監辭表ヲ上テ真成
ノ縣治ヲ置ント請ヘバナリ是日大坂ノ舊儀ヲ再
興シ天下一般ニ之ヲ修行セシメ且異變ノ時大手
坂下兩門通行ノ印鑑規則ヲ定ム○二十八日米國

公使参朝シテ布哇國帝ノ和親條約書ヲ捧呈ス此
日朝廷津藩知事藤堂高猷ノ本官ヲ免シ其子高潔
ヲノ之ニ代ラシム○二十九日在官非役ニ拘ラズ
五位以上ノ者ヲシテ城内車寄ヨリ昇降セシム時
ニ貢米俵ニ故葉ヲ用ヒ水氣ヲ防ガシム○七月二
日泉示ノ者断頭行刑ヲ更ニ小塚原一箇所ニ定ム
此日丸岡藩管下龍谷関港ニ付従前一港兩名ノ唱
ヲ廢シテ更ニ坂井港ト称シ且福岡藩紙幣質造發
覺ニ付元知事黒田長知元小参事西島省以下三十
四人ヲ関門元大参事立花増義以下四人ヲ斬罪其

車寄ヨリ昇降ス

行刑場ヲ小塚原一所トス

福岡藩紙幣質造ノ處分

餘八名ヲ准流或ハ徒罪等ノ刑ニ處シ二品職仁親
王ヲ福岡藩知事ニ任ス○三日若松縣知事四條隆
平其縣下教化漸ク行ハレ惡風稍改ムルヲ以テ其
職ヲ罷メント請フ之ヲ許サレ此日英國代漚公使
アダムス發銃遊獵規則ヲ定メテ釐メ我國在留英
人ノ暴動ヲ防ク是ヨリ先ニ我政府此規則ヲ立シ
テ締約各國公使ニ請ヘバナリ規則ノ畧ニ曰何
人ニ拘ラズ日本都府市街村落ノ限畧中ニテ獵ニ
銃砲ヲ發ッ者及ヒ同政府或ハ官員等ノ邸内或ハ
神社佛閣墳墓ノ地ニ入り遊獵スル者ハ皆犯法ノ

美人ノ發銃遊獵規則

罪ニ處シ其罰法ハ英國領事及ビ他裁判局等ニ於
テ禁獄苦役或ハ過料ヲ課スベシ時ニ池田鳥取藩
知事モ亦上書シテ藩ヲ廢セント請フ○四日大教
ノ旨要ヲ掲ケ宣教使ヲシテ之ヲ宣布セシム畧ニ
曰大教ノ首要ハ神明ヲ敬シ人倫ヲ明ニシ億兆ヲ
シテ其心ヲ正クシ其職ヲ効シ以テ朝廷ニ奉事セ
シムルニ在リ教ノ以テ之ヲ導クナケレバ其心
ヲ正フスルコト能ハズ政ノ以テ之ヲ治ルコトナケレ
バ其職ヲ効スコト能ハズ是レ教ト政ト相須ツテ行
ハル、所以ナリ今ヤ更始ノ際ニ方リ神武天皇鴻

大教ノ旨要

業ヲ創造シ崇神天皇四方ヲ經營セシ偉績ヲ振起
繼述セントス即チ急ニ大教ヲ宣布セザルベカラ
ズ夫レ人ハ万物ノ靈神明最モ惠顧スル所ノ者ナ
リ天孫皇太神ノ勅ヲ奉ジ斯土ニ君臨シテ之ヲ撫
宇セシヨリヤ列聖相承ク亦皆太神ノ心ヲ以テ心
トナササルハナシ然リ而ノ太政ノ變更アル所ノ
者ハ世ニ古今アリ時ニ汚隆アルヲ以テナリ故ニ
大教ヲ宣布スル者ハ誠ニ能ク黽勉從事シ人情ヲ
省テ之ヲ調攝シ風俗ヲ察シテ之ヲ提擡シ以テ神
賦ノ智識ヲ闕キ人倫ノ大道ヲ明ニシ神明惠顧

布哇國ト本條約ヲ結フ

神官祿制

軍警察ヲ置ク

通商司ヲ設ク

刑部省彈正

臺ヲ廢シ罰

法省ヲ建ツ

洪恩ニ負カズ聖朝愛撫ノ威旨ヲ奉ゼシム可シ此

日布哇國ト本條約ヲ結ビ且官國幣社以下神官ノ

祿制ヲ定メ其家祿元高ヲ四ツ物成ニ直シ定制ノ

二分五厘ヲ以テ現石ニテ廉給セシム(此條制寺院祿制ニ同シク之ヲ省ク)

○五日兵部省中ニ軍警察ヲ置キ大藏省中通商司

ヲ廢シ其事務ヲ同省ノ所轄トス○九日刑部省及

ビ彈正臺ヲ廢シ新クニ司法省ヲ建テ其卿輔ノ職

掌ヲ定ム

司法卿

掌總判執法中律打獄新事捕亡

同大少輔

掌同卿

元服家督ノ

獻上物ヲ侍

○十日奉族ノ元服家督并ニ僧侶ノ官位住職等ニ

付物品獻上スルヲ停止ス時ニ佐賀藩知事鍋島

直大家祿及ビ祖先ノ遺金四十万兩ノ三分二ヲ獻

納シ士族土着ノ賣并ニ藩債支消ニ充ント請フ之

ヲ許サル○十二日神宮ヲ改革シ師職并ニ檀家ト

唱ヘ御麻ヲ配分スル等ヲ禁止ス此日從四位大給

恒民部省出仕ヲ命ゼラル○十四日藩ヲ廢シ縣ヲ

置キ在京ノ知藩事ヲ御坐ニ召シ其職ヲ免ルス詔

御麻配分ヲ

廢藩置縣ノ

首長土佐智
四藩知事ハ
勅諭

ニ曰朕惟フニ更始ノ時ニ際シ内以テ億兆ヲ保安
シ外以テ万国ト對峙セシト欲セバ宜ク名實相副
ト政令一二端セシムベシ朕曩ニ諸藩版籍奉還ノ
議ヲ聽納シ新タニ知藩事ヲ命ジ各其職ヲ奉ゼシ
ム然ルニ數百年曰曩ノ久キ或ハ其名アリテ其實
舉ラザル者アリ何ヲ以テ億兆ヲ保安シ万国ト對
峙スルヲ得レヤ朕深ク之ヲ慨ス仍テ今更ニ藩ヲ
廢シ縣ト為ス是レ務テ冗ヲ去リ簡ニ就キ有名無
實ノ弊ヲ除キ政令多岐ノ憂無ラシメントス汝群
臣其レ朕ガ意ヲ体セヨ又別ニ底兒島山口佐賀高

熊本名古屋
徳島鳥取四
藩知事ハ
勅諭

智四藩知事ニ勅シテ曰汝等曩ニ大義ノ不明ヲ慨
キ名分ノ不正ヲ憂ヘ首ニ版籍奉還ノ議ヲ建ツ朕
深ク之ヲ嘉ミシ新タニ知事職ヲ命ジ各其事ニ從
ハシム今ヤ更始ノ時ニ際シ益以テ大義ヲ明ニシ
名分ヲ正サントス因テ今藩ヲ廢シ縣ト為シ有名
無實ノ弊ヲ除キ更ニ綱紀ヲ張リ政令一二端シ天
下ヲシテ其向フ所ヲ知ラシム汝等其レ能ク朕ガ
意ヲ体シ翼賛スル所アレ熊本名古屋徳島鳥取四
藩知事ニ勅シテ曰方今内外多端ノ秋ニ際シ断然
其措置ヲ得天下億兆ヲシテ其方向ヲ定メシムル

二非ノバ安ゾ能ク宇内各國ト并立シテ以テ我國
 威ヲ皇張センヤ是レ朕が宵旰憂慮スル所ナリ曩
 ニ汝等が建議スル所且ニ異同アリト雖也之ヲ要
 スルニ深ク従前ノ弊害ヲ鑑シ遠ク將來ノ猷謀ヲ
 盡ス是レ汝等が衷誠ノ致ストコロ朕之ヲ嘉ミシ
 將ニ施設スル所アラントス汝等更ニ能ク朕が意
 ヲ体シ各其所見ヲ竭セヨ是日辨官ヲ廢シ願伺届
 等直ニ其關係ノ官省へ差出サシメ且廢藩ニ付藩
 札ハ此七月十四日ノ相場ヲ以テ追次引換ヲ可キ
 旨ヲ令シ高智藩板垣退助ヲ從四位參議ニ叙任シ

辨官ヲ廢ス

藩札引替ノ
令

廢藩置縣ヲ
各國公使ニ
告ク

兵部少輔山縣有朋ヲ兵部大輔ニ大裁大輔大隈重
 信ヲ參議ニ大納言岩倉具視ヲ外務卿ニ民部大輔
 大木喬任ヲ民部卿ニ民部少輔井上馨ヲ民部大輔
 ニ任ジ從三位坊城俊政從五位田中不二磨從五位
 土方久元從五位江藤新平ヲ太政官出仕從五位山
 口尚芳ヲ外務省出仕トナシ澤宣嘉ノ外務卿ヲ罷
 ム○十五日福岡藩被廢ニ付二品熾仁親王更ニ福
 岡縣知事ニ任ゼラル○十六日廢藩ニ付岩倉外務
 卿書ヲ各國公使ニ贈リ其旨ヲ告ク畧ニ曰以手紙
 致啓上候然バ我國地方官ハ是迄府藩縣ノ三制ヲ

近世史
 四書卷九
 三十一

司法大輔佐
々木高行

金銀銅賣買
ノ許ス

大學ノ廢シ
文部省ヲ置
ク

相分有之候處今般深ク向後ノ便利ヲ謀リ藩名ヲ
廢シ總テ縣ト相改候此段不取敢御心得迄ニ及御
報知候右可得御意如此御座候○十七日從四位佐
々木高行ヲ司法大輔ニ任ズ○十八日鑛山ノ生産
品ヲ減ジ換用ノ便ヲ決ハン一ヲ恐レテ新貨幣鑄
造ニ付已巳十一月中布達セシ金銀銅三品賣買ノ
禁令ヲ解キ國內自由ニ其業ヲ營マシメ外國輸出
ハ銅一品ニ限リ五分稅ヲ以テ之ヲ許シ且官私鑛
年分堀出表式ヲ定ム此日大學ヲ廢シテ文部省ヲ
置キ東南兩校ヲ其所轄トナシ江藤新平ヲ文部大

文部大輔江
藤新平
行刑場檢使
ヲ廢ス
寄留鑑札ヲ
廢ス
警ク城門番
共ノ礼式ヲ
廢ス

氏子取調規
則

輔ニ任ジ制度局ヲ兼勤セシム○二十日彈正基被
廢ニ付同臺ヨリ行刑場へ檢使派出セシメシヲ止
ム○二十二日寄留旅行ノ鑑札ヲ廢ス此日城門番
兵ヲシテ右大臣以下文官通行ノ時禮式ヲ行ハシ
メシヲ止ム○二十三日壬生基修ノ東京府知事ヲ
罷メ從四位由利公正ヲ之ニ代ラシム時ニ氏子
取調規則并ニ神官守札發出方心得ヲ布告ス（守札差
出方ハ

○氏子取調規則

一 臣民一般出生ノ兒アラバ其由ヲ戸長ニ届ケ必

取調規則ト大同小異ナル之ヲ有キ
殊ニ守札維持ヲ揭示ス

ズ神社ニ参ラシメ其神ノ守札ヲ受ケ所持可致
事

但社参ノ節ハ戸長ノ証書ヲ持参スベシ其証
書ニハ小兒ノ名出生ノ年月日及ビ父ノ名ヲ
詳記シテ相違ナキ旨ヲ証シ之ヲ神官ニ示ス
ベシ

一即今守札ヲ所持セザル者ハ老幼ヲ論ゼズ生國
及ビ姓名住所出生ノ年月日ト父ノ名ヲ記セシ
名札ヲ以テ其戸長ヘ達シ戸長ヨリ之ヲ其神社
ニ達シ守札ヲ受ケテ渡スベシ

但現今修行又ハ奉公或ハ公私ノ事務アリテ
他所ニ寄留シ本土神社ヨリ之ヲ受ル能ハザ
ル者ハ其寄留地最寄ノ神社ヨリ本條ノ手續
ヲ以テ受クベシ尤来申年正月晦日迄ヲ期ト
ス

一他ノ管轄ニ移轉スル時ハ別ニ其管轄地神社ノ
守札ヲ受ケ併ヒテ所持スベシ
一死亡セシ者ハ戸長ニ届ケ其守札ヲ戸長ヨリ神
官ニ返スベシ

但神葬祭ヲ行フ時ハ其守札ノ裏ニ死亡ノ年

月日ト其靈位トヲ記シ更ニ神官ヨリ之ヲ受ケテ神靈主トナスベシ尤別ニ神靈主ヲ作ルモ可為勝手事

一守札焼失又紛失セシ者ハ其戸長ニ届ケ戸長其事實ヲ糺シテ相違ナキヲ証シ改テ受クベシ
一自今六箇年目毎ニ戸籍改ノ時ハ守札ヲ出ダシ戸長ノ照檢ヲ受クベシ
一守札ヲ受ルニヨリ其神社へ納ムル初穂ハ其人ノ心ニ任セ多少ニ限ラザルベシ

○守札雛形

守札雛形

表 其所其神社氏子



生國何
父名何
何誰

年月日出生

此寸法堅三寸横二寸ノ木札ヲ用ヒ中ニ其神社所用ノ印ヲ押スベシ

裏

年月日
神官氏名印
氏名印

侍從長大少

内匠司

調度司

○二十四日宮内省中二侍從長大少監及内匠調度三司ヲ置キ文部省教官ヲ定メ且女官位ヲ改正ス

文部省	大博士	從三位
	中博士	正四位
	少博士	從四位
	大教授	正五位
	中教授	從五位
	少教授	正六位
	大助教	從六位
	權大助教	正七位
	中助教	從七位
	權中助教	正八位
	少助教	從八位
	權少助教	正九位
女官	從三位	從四位
	從四位	正五位
	從五位	從五位
	正六位	從六位
	從六位	正七位
	正七位	從八位
	從八位	正九位
	大初位	少初位
官位	尚侍	二百石
	典侍	二百石
	權典侍	二百石
	掌侍	百石
	權掌侍	百石
	命婦	八十石
	權命婦	五十石
	女孀	廿二石
	權女孀	十七石
	雜仕	十石
	下仕	八石

副島種臣表
職ヲ免セラル
ル
三役ノ内ヲ
廢ス
民部省ノ廢
ス
大藏省兼司
ノ廢置
奏任宣旨渡
方

○二十五日一品幟仁親王隱居願ヲ許サル此日副島種臣參議ヲ免セラル○二十六日從來高槻ヲ以テ納メシ三役ノ内傳馬宿入用米及ビ高槻ヲ以テ取立シ藏前入用及ビ六尺給米等皆之ヲ廢ス時ニ清濁酒醬油醸造ノ稅則ヲ定ム○二十七日民部省ヲ廢ス是日大藏省中監督用度租稅三司ヲ廢シテ更ニ租稅寮及ビ勸業統計紙幣戶籍驛遞五司ヲ置キ且奏任官宣旨渡方ヲ定メ太政官ヨリ宣旨ヲ下ダシ其官省卿輔ヲシテ之ヲ其本人ニ渡サシム○二十八日民部省被廢ニ付元土木司ノ事務ヲ工部

大木文部卿

井上大藏大輔
伊藤租税頭

三條太政大臣

田中相學大史

土方相學大史

坊城式部長

太政官官制

省ニ属ス此日從四位大木喬任ヲ文部卿ニ從五位
井上馨ヲ大藏大輔ニ大藏少輔伊藤博文ヲ租税頭
ニ任ズ○二十九日太政官中左右大臣大納言正權
大少史主記官掌ヲ廢シ更ニ正院左右院等ノ官制
ヲ定メ從一位三條實義ヲ太政大臣ニ從五位田中
不二麿從五位土方久元ヲ樞密大史ニ集議判官神
田孟恪正六位淡澤榮一ヲ樞密權大史ニ從三位坊
城俊政ヲ式部長ニ任ズ尋ニテ太政官職制并ニ事務章程
ヲ令スレド今職制ヲ茲ニ附シテ
章程ヲ省クハ兼收ノ事ク
蓋マ所ニ非レバナリ

太政官官制

凡正四位以上ヲ勅任シテ正六位以上ヲ奏任シテ四等ヲ分チ從六位以下
ノ別任シテ七等ヲ分チ別任ハ官制更ニ是等ノ何等出仕ヲ以テ之カ級ヲ分チ

正院

太政大臣

相正二位

樞密大史

正四位

大史

從四位

納言

從二位

樞密權大史

從四位

權大史

正五位

參議

正三位

樞密少史

正五位

少史

從五位

樞密權少史

從五位

權少史

正六位

式部局

長

正四位

大式部

從五位

助

從四位

少式部

正六位

舍人局

長

從六位

助

正七位

雅樂局

長

從六位

助

正七位

左院

議長

正三位

二等議官

正四位

一等議官

從三位

三等議官

從四位

右院

諸省長官次官

太政官職制

天皇親臨

正院

太政大臣一員 天皇ヲ補翼シ庶政ヲ總判シ祭
和外交官戰講和立約ヲ推海陸軍
官ヲ統知ス

納言 職掌大臣ニ亞ク大臣久用ノトキハ
其事ヲ代理スルヲ得ル

参議 大政ニ參預シ官事ヲ裁判シ大臣綱
目ヲ補佐シ庶政ヲ贊成スルヲ掌ル

樞密大史一員 樞密ノ文案ヲ掌ル

樞密推交一員 職掌大史ニ亞ク
樞密ノ文案ヲ掌ル

樞密少史一員 樞密ノ文案ヲ掌ル

式部局 長 助
内外ノ儀式
及圖書ヲ掌ル

大式部 少式部
令省直ヲ知
リ書政請書ヲ
中達スルヲ掌ル

大舍人 小舍人
雅樂局
長 助
雅樂ノ事ヲ掌ル

左院 議長
参議リ兼任
シ又二等議
官ヨリ任ス

議事ヲ列ス
テ掌ル

一等議官
二等議官
三等議官
諸立法ノ事ヲ

右院 諸省長官
次官
當務ノ法案
ヲ草シ諸省
ノ議事ヲ審
調スルヲ掌
ル

書記
各本官ノ秘

樞密推少史一員 職掌少史ニ亞ク

大史一員 文書記録傳達等ヲ掌ル

推大史一員 職掌大史ニ亞ク

少史一員 文書記録ヲ掌ル

推少史一員 職掌少史ニ亞ク

小舍人
雅樂局
長 助
雅樂ノ事ヲ掌ル

議スルヲ掌ル

書記
文書ヲ檢シ議
案ヲ草スル事
ヲ掌ル

書記
文書ヲ檢シ法
案ヲ草スル
ヲ掌ル

此日清國ト假條約ヲ結ビ是月判任履歴表編輯規則ヲ布告ス

○判任履歴表編輯規則

- 一 維新以來諸官省府縣ノ判任進退及ビ職務ニ關
- 一 係スル事件ヲ遍ク記載シテ判任履歴表トス
- 一 判任ヨリ奏任以上ニ轉任スルハ謄寫シテ太政
- 一 官ニ差出シ又他ノ官省ニ轉任シ或ハ一旦免職

ノ者再ビ他ニ登用スルモ同ク授受シテ追録ス
ベシ

一編輯ハ總テ達書ノ全文ヲ記載シ年月日ヲ詳ニ
スベシ又達書中其官省ノ号ナキ者譬バ出仕申
付候ト達スルノ類ハ各其條ノ左側ニ何官省ト
書スベシ

一拜任以来戸籍ヲ改メ又苗字通称實名等ヲ改ム
ルハ舊名ヲ其傍ニ朱書スベシ

近世事情四篇卷九終



